



# 浦島伝説

令和2年10月12日

第15号

## 大切なもの それは「仲間」

### 笑顔いっぱいの修学旅行 (9/18)

「3年団のメンバーで思い出をつくる事ができたことが何より嬉しかったです。」

これは、ある3年生が修学旅行記に記した言葉です。今年の修学旅行は、「どこへ行き、どれほどの時間を費やすか」が大切なのではなく、たとえ短い時間であっても、「だれと共に過ごすか」が何よりも大切なのだということを教えてくれました。ここに、旅行記の一部を紹介します。

- 人とのつながりをとても感じました。コロナの影響で顔はマスクで隠れていました。それでも笑顔が伝わるぐらいずっと明るい気持ちの修学旅行でした。短い時間が僕の中で特別の時間になりました。
- 修学旅行は雨でしたが、皆と遊びに行けたのが嬉しくて、天気なんてどうでもいいぐらい楽しかったです。でも、やっぱり「沖縄へ行きたかったなあ…」と思いました。
- レオマや水族館が楽しかったからこそ、帰りのバスの中や家に着いてから悲しくなりました。でも、家族の前でお土産を整理しながら「友達と選んだ」と話をして、とても楽しかったです。本当は沖縄で2泊3日を過ごすはずだったけれど、今こんなに大変な状況なのに、予定を立てて連れて行ってくださったことに感謝しかないなあと思います。たった1日だけれど、いつもの100倍ぐらい濃くて充実した1日でした。



## 1年生 五色台出前授業

9月30日、五色台少年自然センターから5人の先生が来校し、1年生に「出前授業」を実施してくださいました。事前の希望調査結果に基づいて、「紙すき体験」と「化石レプリカづくり」の2コースに分かれて体験しました。感想をいくつか紹介します。

- 今日はとても楽しかった。早く家族に見せたいです。そしてまた化石を作りた五色台へ行きたいです。
- 五色台の出前授業があった。最初ミスをしたらどうしようと思ったがだんだん楽しくなっていました。
- 私は、紙すきで音符のデザインにしました。最初は難しかったけれど、最後はとても簡単でした。とてもいい作品ができました。また家でもやってみたくと思いました。

